

No. 54

2025/10/1

香川県立三本松高等学校同窓会

大中三高会報



門柱の校名

正門の門柱に記された「香川県立三本松高等学校」は、南原繁先生の筆によるものです。石柱自体は初代旧校舎の東門の門柱を移設したものです。先生らしく校名以外は何も書かれていません。正門には庵泊石が使われ堂々とした威厳があり、正門に連なる石垣は、市内の建設業者有志が建造したもので古城の風格が感じられます。

目次

ごあいさつ	2	叙勲、寄贈	9
令和7年度理事会	3	同窓会の開催(三高18回、26回、66回)	10
支部だより	4	三高生の特色ある学習と主体的な活動	12
寄稿「南原繁先生のこと」	6	進路状況	14
追悼	8	部活動等の活動状況	15
香川県公立高等学校同窓会協議会	9	事務局からのお知らせ	16

三本松高校よ 永遠なれ！



前会長
名 淵 薫
(三高24回卒)

秋晴の候、同窓会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。さて、過日の理事会において、3期6年務めさせていただきました会長を退任いたしました。顧みますと、母校の生徒数の減少傾向とコロナ禍の中であって、役員をはじめ多くの同窓生を中心に、ご指導ご協力賜りましたことを心より感謝申し上げます。

会長在任中の大部分はコロナ禍にあり、母校も120周年を迎え、各種事業も行動制約の中で、校長はじめ、教職員の皆様にはご苦勞をおかけいたしました。高校生の各種大会も中止になり、同窓会としては生徒への支援のあり方も検討しながら、各種事業の運営を行いました。改善すべきことも多かったと思っています。

少子化の大きな波は押し寄せており、卒業生を中心として、地域在住の方々の知恵と存続への期待を結集しなければならない大切な時と思います。

今後は原新会長の下、同窓会活動の充実、母校の支援、発展にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、歴代校長、教職員をはじめ関係の皆様には感謝の意を捧げて、ご挨拶といたします。

就任のあいさつ



会 長
原 彪
(三高26回卒)

このたび、伝統のある大中三高会の会長に就任することとなりました。職責を果たすために今後引き続きみなさんの温かいご支援をいただけますよう心よりお願い申し上げます。

現在、三本松高校を取り巻く環境はかなり厳しいものがあります。全国の他の地方と同様に子どもの数が激減し、本校の生徒数は1960年代の最盛期に比べ3分の1ほどまでになっています。そしてこの生徒減は当分の間続くことは確実です。この現状を同窓生のみなさんに知っていただき、学校存続への危機感を共有したいと考えています。母校三本松高校には、困難な状況にあってもかつて「東讃の雄」と呼ばれた伝統や誇りを忘れず、どんなに小規模になろうとも他に取って代わることのできない存在感と独自性を持つ学校であり続けることを願っています。

同窓会の役割には様々なものがありますが、このような厳しい状況にあっては母校と現役生徒を様々な方面から支援することが、同窓会に求められる最も重要な役割ではないでしょうか。そのためには、地元行政や地域、PTAとのつながりを密接にしていくことや、年会費を収めていただける会員を増やしていくことが欠かせないことだと考えています。

南原先生をはじめとする偉大な諸先輩、大都市に出て行き活躍している方々、そして地元を支え発展させてきた方々など、本校は長年にわたり多くの人材を輩出してきました。今後も良き人材を生み出していくことのできる学校であり続けていけることを目指し、みなさんの力を合わせて元気で楽しい同窓会にしていきたいと思います。

母校に赴任して



校 長
神前知弘
(三高35回卒)

大中三高会の皆様方におかれましては、日頃、本校の教育活動にご理解、ご協力、また、物心両面にわたり多大なるご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

私事で恐縮ですが24年前、創立100周年を終えたばかりの三本松高校を離れ、高松、さぬき、西讃地区の4校の勤務を経て、今年4月に再び母校に赴任できたことは卒業生としてこの上ない喜びです。前回の赴任当時とは校舎、体育館など施設は新しくなっていますが、100周年記念館（図書館棟）、大中会館、旧第1体育館（現第2体育館）など、かつての面影を垣間見れることは感慨深いものがあります。また、創立記念の虎丸登山、耐寒マラソンなど伝統行事も受け継がれています。しかし、少子化の波は顕著で生徒数は全日制303名（学年4クラス）、定時制25名となっています。本校では、全国からの生徒募集も行っております。他地域からの生徒が地元地域の生徒に刺激を与えてくれることにも期待しておりますので、募集活動等にもご協力いただけましたら幸いです。

今後も引き続き、東かがわ市唯一の高校として、特色化・魅力化に努めてまいりますので、なお一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年度

大中三高会理事会

日 時 令和7年6月7日(土) 15:00～17:00
場 所 瀬戸内リゾートベッセルおおち
出席者 67名

議 題

1、令和6年度事業報告および会計報告について
<令和6年度 事業報告>

○行事

文化祭 9月7日 (一般公開)
南原ウォーク 12月7日 (生徒会主催)
大中三高会入会式 3月4日
○会報「第53号」2,700部 10月1日発行
○奨学金 21名に給付
○役員会
幹事会 5月16日 (三本松高校)
理事会 6月8日(瀬戸内リゾートベッセルおおち)

○支部

高松支部総会 6月22日(高松国際ホテル)
東京支部総会 10月19日(主婦会館プラザエフ)
関西支部総会 11月10日(ホテルマイステイズ新大阪)

○卒業50周年記念寄付

三高26回卒有志 2月17日

2、令和7年度事業計画および予算について
<令和7年度 事業計画>

○行事

文化祭 9月6日 (一般公開)
南原ウォーク 12月6日
大中三高会入会式 3月3日
○会報「第54号」2,500部 10月1日発行
○奨学金 12月中旬
○役員会
幹事会 5月20日、3月下旬
理事会 6月7日(瀬戸内リゾートベッセルおおち)

○支部

高松支部総会 6月28日 (高松国際ホテル)
東京支部総会 10月18日 (主婦会館プラザエフ)
関西支部総会 11月8日 (新大阪ワシントンホテル)

3、会員名簿の発行について

2030年に発行するかしないか再検討する。

4、役員の改選について

別紙「大中三高会 役員一覧表」のとおり

5、その他

卒後20年学年全体同窓会について

6、報告事項

○香川県立三本松高等学校教育後援基金について
○香川県公立高等学校同窓会協議会について

●令和6年度 香川県立三本松高等学校
教育後援基金会計 決算報告書
(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

【収入の部】			(単位:円)
費 目	決算額	摘 要	
1 寄 付 金	555,378		
一般寄付	(55,378)	寄付金 文化祭バザー収益金含む	
卒業50周年記念寄付	(500,000)	三高26回卒有志一同より	
2 活 動 支 援 金	2,060,000		
		岩佐教育文化財団(岩佐賞賛金)	
		高校生ボランティアアワード2024(特別賞賛金)	
3 雑 収 入	396,329		
		タオル売り上げ金、マルシェ売り上げ金	
		預金利息	
当年度収入合計	3,011,707		
前年度繰越金	8,054,301		
合 計	11,066,008		

●令和6年度 大中三高会会計 収支決算書
(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

【収入の部】			(単位:円)
費 目	決算額	摘 要	
1 入 会 金	1,064,000		
2 会 員 会 費	2,314,112	862件、三高26回卒有志一同を含む 「会費2,511,242円 - 手数料197,130円」	
3 雑 収 入	5,767	預金利息	
当年度収入合計	3,383,879		
前年度繰越金	7,124,561	令和5年度からの繰越	
合 計	10,508,440		

【支出の部】			(単位:円)
費 目	決算額	摘 要	
1 会 議 費	54,285	会長副会長会、幹事会、理事会	
2 旅 費	334,240	支部総会等出席旅費	
3 慶 弔 費	55,000	支部祝金、慶弔金等	
4 通 信 費	78,247	電話料金、郵便切手等	
5 事 務 費	236,738	事務管理費、謝金、学校案内印刷代 事務用品購入	
6 行 事 費	249,727	創立記念餅代、卒業証書ファイル代 南原ウォーク経費、学生行事参加補助	
7 会 報 発 行 費	688,577	会報第53号印刷及び発送費	
8 学 校 施 設 整 備 費	305,862	歴代会長等写真デジタル化、スリッパ購入 大中会館窓枠修理	
9 育 英 事 業 費	1,000,000	奨学金	
10 南 原 文 庫 充 実 費	199,330	図書購入代 132冊	
11 部 活 動 後 援 費	268,668	全国大会出場補助(フェンシング部、科学部 三高みんなの食堂プロジェクト、献血ボラン ティアネットワーク、定歩道、定バドミントン、 定通生徒生活体験発表)	
12 雑 費	10,275	「香川県公立高等学校同窓会協議会」会費	
13 予 備 費	0		
当年度支出合計	3,480,949		
次年度繰越金	7,027,491	令和7年度へ繰越	
合 計	10,508,440		

●令和7年度 大中三高会会計 予算書
(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

【収入の部】			(単位:円)
費 目	予算額	摘 要	
1 入 会 金	1,104,000		
2 会 員 会 費	2,000,000		
3 雑 収 入	509	預金利息	
当年度収入合計	3,104,509		
前年度繰越金	7,027,491	令和6年度から繰越	
合 計	10,132,000		

【支出の部】			(単位:円)
費 目	予算額	摘 要	
1 会 議 費	100,000	会議経費	
2 旅 費	500,000	支部総会等出席旅費	
3 慶 弔 費	100,000	支部祝金、慶弔金等	
4 通 信 費	200,000	電話料金、郵便切手類等	
5 事 務 費	600,000	事務管理費	
6 行 事 費	500,000	創立記念餅代、卒業証書ファイル代 南原ウォーク経費、学生行事参加補助 学年同窓会事務経費	
7 会 報 発 行 費	1,000,000	会報第54号印刷及び発送費	
8 学 校 施 設 整 備 費	1,000,000	資料館維持管理費、樹木等管理費	
9 育 英 事 業 費	1,000,000	奨学金	
10 南 原 文 庫 充 実 費	200,000	図書の購入	
11 部 活 動 後 援 費	500,000	全国大会出場補助、国際大会派遣補助	
12 雑 費	100,000		
13 予 備 費	300,000		
当年度支出合計	6,100,000		
次年度繰越金	4,032,000	令和8年度へ繰越	
合 計	10,132,000		

【支出の部】			(単位:円)
費 目	決算額	摘 要	
1 特 別 活 動 費	551,543	生徒活動費および旅費(三高みんなの食堂プロジェクト・ 県高校生献血ボランティア)	
2 指 導 費	882,180		
部活動指導費	(136,900)	部活動外部指導者指導料	
学習支援費	(141,620)	指導費、旅費	
活動支援費	(543,660)	指導費および旅費(三高みんなの食堂プロジェクト) (香川県高校生献血ボランティアネットワーク)	
3 講 演 費	119,947	「虎丸ゼミ」講師料(3名)	
4 事 務 費	35,794	学校紹介ビデオ作成編集経費、事務用品 切手代等	
5 雑 費	0		
6 高等学校県外生徒就学 支援事業補助金	120,000	1名分	
7 予 備 費	0		
当年度支出合計	1,649,464		
次年度繰越金	9,416,544		
合 計	11,066,008		

次年度繰越金内訳：普通預金(百十四銀行三本松支店) 9,416,544円

支 部 だ よ り

東京支部の存続をかけて

東京支部長 對 馬 秀 樹
(三高43回卒)

昨年の東京支部総会には、松本弘司教頭先生、元校長の泉谷俊郎様、大中三高会長の名淵薫様、本部副会長の原彪様、東かがわ市長の上村一郎様、高松支部長の軒原正浩様、関西支部長の谷口廣重様を来賓にお迎えし、総勢44名のご参加を得て盛大に開催することができました。この模様は四国新聞にも掲載され、二次会・三次会・四次会と熱の冷めぬ盛り上がりのまま夜は更け、改めて東京支部の絆の強さを感じる一日となりました。

とはいえ、目標の50名には届かず、近年は参加者数が40名台に留まっております。三本松高校の生徒数減少と、関東への進学・就職者の激減という現状のなか、支部の今後に一抹の不安を覚えております。何の対策も取らなければ、東京支部の存続が危ぶまれるとの危機感を、幹事一同共有しております。

そうした背景のもと、新たな取り組みとして、去る4月12日(土)「新学年の集い」を田淵顧問のご厚意により赤坂の寿司店にて開催いたしました。参加者19名のうち初参加者も数名おり、「こんな素晴らしい会があるとは知らなかった」「毎年参加したい」といった嬉しい声も寄せられました。関東近郊には本会の存在を知らない方もまだ多くいらっしゃいますので、今後も情報発信・周知に努めてまいります。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

今年の総会は、10月18日(土)、昨年と同じ四ツ谷の主婦会館にて開催予定です。改めて50名の参加を目標に掲げ、準備を進めております。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加賜りますようお願い申し上げます。



新学年の集い

関西支部 21 年目の年に

関西支部長 橋 本 誠 司
(三高29回卒)

この6月、谷口廣重前支部長の後を受けて、支部長に就任いたしました。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

さて、関西支部は昨年11月、会則を整え大阪支部として正式に発足してから20年の節目を迎えました。この間、2015年には同窓の輪を近畿6府県に広げ、関西支部と名称を変更して活動しております。

昨年11月10日、新大阪のホテルで開いた同窓会(総会)には、泉谷俊郎元校長、東かがわ市の久保輝起副市長のほか、軒原正浩高松支部長、永峰徹前東京支部長らにもお運びいただき、現役の学生10名を含め計41名が参加、歓談しました。

今年は、この20年の歩みを記念し、同窓の絆をさらに深めるよすがとして、記念誌を発行することにしております。ご関係のみなさまや会員各位に寄稿をお願いし、11月8日(土)に新大阪で開催する「記念集会」にはお手元に届けられるよう準備しているところです。

予算も限られるなか手作りに近い作業で、はたしてどのような出来になるのか、なんとも言い難いものがありますが、記念誌の発行が、関西支部のさらなる飛躍につながればと願っております。



安元邦夫さん(三高7回卒)のピアノ伴奏で、「紅葉」を合唱(2024年11月10日)

令和7年度高松支部総会

高松支部長 藤 本 博 之
(三高39回卒)

本年の高松支部総会にて役員の改選が行われ、この度高松支部長を拝命しました藤本博之と申します。力不足ではありますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

高松支部では第37回高松支部総会を高松国際ホテルにおいて盛大に開催しました。本部より原会長をはじめ役員の皆様、谷口関西支部長、東かがわ市から上村市長と地域創生課の皆様、学校からは神前校長の出席を賜り、総勢53名のご参加を頂きました。

総会では名司会の岡田理事と軒原前支部長との掛け合いのもと終始和やかに進行することができました。軒原前支部長の退任の挨拶では「私は支部長を引くことになりましたが、我が三本松高校は永遠に不滅です！」とのお言葉を頂き大いに盛り上がりました。

また、東かがわ市地域創生課の白井副主幹、酒井副主幹、佐藤主査による「瀬戸内国際芸術祭について」の演題で講演をいただきました。東かがわ市での初開催ということもあって、地元の皆様での準備の様子など非常に興味深くぜひ行ってみたいと思いました。

今後の高松支部運営にあたっては若手が中心となりながらも、より幅広い年代が世代を超えて楽しく交流できるような活動をしたと考えております。高松支部総会が高松市在住の卒業生はもちろん、地元東かがわ市や県内、県外を問わず三本松高校の卒業生ならだれでも参加できます。ぜひ皆様お誘い合わせの上ご参加ください。大勢で母校の校歌を大合唱できることを役員共々楽しみにしております。



令和6年度県庁虎丸会総会

県庁虎丸会長 松 本 秀
(三高34回卒)

令和6年度の県庁虎丸会総会は、令和6年11月8日（金）に、高松市鍛冶屋町にある「威風（イフ）」というレストランで開催いたしました。

当会の総会は、コロナ禍を経て、令和5年度の総会として、令和6年1月に四年ぶりに開かれましたが、今回はコロナ後、二回目の開催となりました。

年度またぎではありますが、同じ年に二回の開催となったにもかかわらず、総勢21名の多くの方々に集まっていただきました。

こうして県庁虎丸会は始まりましたが、まずは、大中三高会名湊会長様、三本松高校橋本校長様の暖かい御祝辞により、華やかさを添えていただき、川北顧問様の乾杯の御挨拶では、我々にたくさんの元気をいただきました。

このあと母校の思い出や現在の職場の話題などで、楽しく語り合いました。

また、出席者の方々の自己紹介が行われ、より深くお互いのことを知ることができました。そして、最後には、恒例の三本松高校の校歌斉唱でより絆を深めるとともに、三谷顧問様から締めとして励ましのお言葉をいただきました。

引き続き、県庁虎丸会を大いに盛り上げていきたいと思っていますので、皆様方には今後とも温かく見守っていただきますようお願いいたします。



寄稿

本校出身で郷土の偉人、南原繁先生に関する記事が、安元邦夫（三高7回卒）様から寄せられました。貴重な資料であり本欄でご紹介いたします。また、南原先生の少年時代を綴った『我が望 少年南原繁』を執筆された本校元校長の岩本三夫氏のご子息の来校、南原没後50周年記念展示についても併せてご紹介します。

奇しき御縁の地

「中筋73」

安 元 邦 夫 (三高7回卒)

①南原きくと婿養子三好貞吉とは離婚後もそれぞれが結婚前の地に住んでいた。きくは相生、貞吉は与田川のほとりで、三、四里も離れていた。繁が2歳の頃、母は、この子を背負い夜中に西に向かった。

繁の将来の養育のために、あの人と何とか話をつけておきたかった。貞吉は会って相談にのってくれた。中学に上がれば、低学年の頃は期末試験の頃に父の家から通い、上級生になると全期間、父の家からと同じように通わせてもらえた。苦しい家計の中からではあったが、立派に育ててもらえた。家には4歳年下の弟・栄がいて共に卒業している。大中三高会の会員名簿によれば、(南原繁、大中3回・明治40年卒)(三好栄、大中8回・明治45年卒)とある。

②安元家の祖先は、幕末の頃、与田寺の北に繋がる火葬場つきの墓場群の小高い丘（「あの山」と称した）の東側の裾野・明神という地で田畑を耕していた。

明治になり、好太郎とソメの子供達が次々と結核で亡くなり、最後に生まれた3代目喜三郎とキヨ、イシノが元気に育った。喜三郎は分家してこの地を離れ、与田川橋の西詰に移り、醤油屋の仕事をした後、荒物商を始めた。妹達は、津田出身で大阪で仕事をしていた佐藤菊太と須本宗七を近所の方から紹介され嫁いで子孫は藤沢・大阪で育ち、今日をなしている。

大正6年生まれのとしエは高松の明善女学校に通った。須本宗七の弟、利吉との縁談がまとまり、結婚式に出るために宗七が鉄路、讃岐に向かっていた時、上郡で二・二六事件の報を聞いた。

宴席は夜、自宅で設けられ、翌年、私（邦夫）が生まれた。終戦の前年、私は国民学校1年生となったが、父はフィリピンの山中で戦死した。復員した戦友から、最後の様子を母と妹が聞きとっている。

③4歳年上のいとこ須本規容子が大阪から、わが家に疎開してきており、卒業後、津田の女学校に進んだ。提出する書類に現住所を記入した時、丹生から来ている三好さんが



「あんたの住所、私の本籍と同じじゃないの！こんな不思議なことある？」と大きな声を出した。これを聞いた私は、すべてを理解できた。

④私は三本松高校を卒業し、浪人生活の後、東大に合格し、香川育英会東京学生寮の世話になった。ここは、芝三田の慶応義塾の南で、小高い旧松平藩の跡地に設けられた木造平屋建、ブロック造2階建、コンクリート造3階建の各一棟からなる男子寮で、30余名の同期生が入寮した。その頃すでに東大総長を退官されていた南原先生をお迎えして卓話を賜った。一通りのお話の後、数名の学生が紹介された。私は「南原先生が中学生の頃住み、通われた三好さん宅を私の祖父が求めて、「その地で私が生まれ育ったご縁があります」と話した。先生は「ああ、そうだったか」と両手で握手して下さった。私は用意していた先生の著書「文化と国家」を差し出し、サインを戴いた。記念の本書は、いずれ南原記念館に寄贈したい。先生との出会いはここまでです。

私の心のよりどころとなり、先生との御縁ができた地は「中筋73」でした。これから64年、米寿を越えて須磨の地で妻・栄子に支えられて余生を楽しんでいる。

岩本先生のご来校

6月17日（火）、三本松高校長を務められた岩本三夫先生の御子息、岩本直樹香川大学名誉教授が、郷土史研究家の田山泰三氏と共に来校され百周年記念館を見学されました。

岩本三夫先生は三本松高校第十七代校長。退任されてから若き日の南原繁先生の伝記執筆に尽力し、1985年10月、名著『我が望 少年南原繁』を刊行されました。この本は南原先生の少年時代を伝える貴重な内容で、現在では国内における南原先生研究の必携書となっています。

岩本直樹先生は、東京大学理学部物理学科卒業後同大学大学院理学系研究科修士課程修了。専門は理論物理学。その後カリフォルニア大学サンタバーバラ校理論物理学研究所研究員などをへて86年に米国トレド大学物理学天文学科教授。その後帰国され2000年より香川大学工学部教授。現在名誉教授。今も年に数回渡米して研究活動を務めています。

岩本先生は展示を見学されたあと、学校に保存される三夫先生の資料をご覧になりました。ご尊父三夫先生を懐かしく思い出しながら、当時の校長時代のことや『我が望』執筆時の状況を語って下さいました。岩本直樹先生から語られる三夫先生の真摯な研究姿勢はとても素晴らしい内容でした。直樹先生の学問にかける情熱にも感動いたしました。三夫先生の功績に敬意を表するとともに、直樹先生の益々のご活躍を祈念したいと思います。

「南原繁没後 50 周年記念 －わがふるさと－」について

南原繁先生の没後50周年を記念し、三本松高校と市教育委員会が東かがわ市歴史民俗資料館において、令和6年12月25日から令和7年2月24日にかけて企画展を開催しました。

展示の趣旨は、南原先生の生涯－戦後混迷する日本の進むべき道を示し、戦後教育の礎を築いたオピニオンリーダーであること、そして地元や母校のために活躍し、郷土愛に生きた人物であること－を紹介することです。三本松高校が所蔵する南原先生が幼少期に自身の志を書き示した「我が望」のレプリカや、戦後間もない頃に大川中学校へ揮毫した「真理」の扁額などの資料や当館所蔵の資料を40点ほど展示し、その生涯を余すことなく紹介しました。

企画展の反響は大きく、読売・朝日新聞やNHKのニュースで企画展の様子が取り上げられました。開館日数は49日、500人を超える来場者数を記録し、普段は目にすることのない貴重な資料に目を輝かせながら、地元を代表する偉人の生涯に多くの人が感心を寄せていました。

三本松高校同窓会の皆様のご協力のおかげもあり、これまでにない、意義深い企画展を開催することができました。三本松高校同窓会の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

（東かがわ市歴史民俗資料館学芸員 小川 浩功）



来校された岩本直樹先生（左）



2月2日 学芸員による展示解説

昨年末、尊敬する赤澤庄三様をご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し心よりご冥福をお祈り申し上げます。

氏は帝國製薬株式会社の社主であり、扶桑化学工業株式会社の創業者でもあり、香川が生んだ傑出した経済人であることは広く知られたことですが、それ以上に私たちにとって特筆すべきは、故郷と母校三本松高校をこよなく愛し、常に思いを寄せて多大な貢献を続けてこられたことです。その貢献の大きさは東讃の歴史上に特筆すべきことと言っても過言ではありません。心から敬意を表し感謝申し上げます。次第です。

私との関係はかれこれ40年以上になります。まだ若かった私には雲の上の存在といっても過言ではありませんでしたが、常に変らぬご厚誼とご指導、ご支援をいただいていたりました。

氏は優れた企業人としての多大なる実績からして厳しい経営判断力と決断力を発揮してこられたことと思われます。その点は私たちには伺い知れませんが、温厚な人柄については接する中で様々な思い出を残していただきました。

氏はお洒落でダンディ、一方でざっくばらんに東讃の方言を丸出しで思いを語り、「かくあるべし」といったことを熱く語っていただきました。

その中で特に思い出深いのは、私がまだ三十代後半のころに「東讃には市がない、町の合併に取り組むべき」ということと「地元を元気にするリーダーが必要でありそのためには青年会議所を設立するべき」ということを熱心に語られました。当時、最も若い一町議会議員だった私には雲を掴むような話で、何から手を付けてよいのか五里霧中でした。合併は無理でもまずは青年会議所からと考え、知人友人に話を持ち掛け、そこからだんだんと人の輪が広がっていき「大川郡八町はひとつ」とのスローガンのもと東かがわ青年会議所が産声をあげることとなりました。その最終盤になって私がおもいがけず大内町長に就任したため、設立宣言には関わったものの正式の設立式には身を引いていたためチャーターメンバーになっていませんが、その時のメンバーは団

追悼 赤澤庄三氏



熱い思いで 未来を遠望する 慧眼の人

顧問

中條弘矩

(三高17回卒)

塊の世代を筆頭にした元気で有能な人材ばかりで立派な地域リーダー、経済人として今も大いに活躍されています。その後、「大川郡八町はひとつ」のスローガンを掲げ続けて息の長い活動を展開したことも一助となり、平成の大合併の先陣を切り全国から注目されることになりました。紆余曲折を経て八町が一つにはならず、さぬき市、東かがわ市の二市となりましたが、赤澤様の思いの一部は叶えられたのではと思うところです。

言わば現在の東かがわ市の生みの親と言っても過言ではありません。

氏の故郷や三本松高校への思いは深く、地域の教育や文化の振興発展に長く変わることない多大なご支援とご

援助を頂いてまいりました。その母体として財団法人赤澤記念財団を早くから設立され継続的、恒久的な姿勢の遺志と体制を示されたのは慧眼と言わざるを得ません。

赤澤様は母校三本松高校の同窓会である大中三高会の会長、名誉会長を数十年に亘ってつとめられ、まさに大中三高会の象徴のような存在でもありました。

かなり以前になりますが、西讃のある先輩市長から、「東は地域の発展を願う郷土愛の深い立派な経済人がおられて羨ましい」と言われ、赤澤様の名前を出して絶賛されたことがあります。遠く離れたところからも、そのように見てくださる方を知って、嬉しく又誇らしく思ったことを思い出します。

ある時、二人で雑談中にある方のエピソードを交えながら「進む時は人任せ、退く時は自ら決せよ」という言葉を話されました。まだ四十代の私には実感としては沸いてきませんでしたが、人の出処進退の要諦であると受け止め、以後の人生の節目においてそのことを念頭に対処してきたつもりです。

振り返れば、困った時にはお願いに行き、折りに触れて貴重なアドバイスをいただき、お世話になるばかりで何ひとつ恩返しできていないことが心残りではあります。

心から感謝を申し上げ、改めてご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございます。合掌。

■香川県公立高等学校 同窓会協議会

令和4年に発足した「香川県公立高等学校同窓会協議会」は、県内の各公立高校の同窓会組織が情報や課題を共有しながら、協力して活動するための組織です。現在15校の同窓会で構成されています。

5月26日には、三本松高校で協議会の総会が開催されました。18名の参加があり、はじめに、三本松高校食堂で生徒から「三高みんなの食堂プロジェクト」のこれまでの活動報告を聞きました。そのあと、普段生徒が食べている定食と同じものをいただきました。

校内を散策しながら、百周年記念館（図書室）に移動し、令和7年度の公立高校同窓会協議会の総会を開きました。

議題として、同窓会の現状と課題・対策が活発に話し合われました。

今後、同窓会として県への要望を積極的にしていくことで閉会いたしました。



「三高みんなの食堂プロジェクト」の活動報告



「香川県公立高等学校同窓会協議会」総会

■叙勲・褒章

敬称略

旭日小綬章「地方自治功労」

井上 弘志（三高16回卒）

瑞宝小綬章「教育功労」

小坂真智子（旧職員）

瑞宝単光章「児童福祉功労」

小島 英子（三高26回卒）

正六位

好村 昌明（三高12回卒）

緑綬褒章

金岡エミ子（三高13回卒）

総務大臣表彰「統計調査功労者」

金岡エミ子（三高13回卒）

知事表彰「社会福祉功労」

森 正行（三高26回卒）

第88回香川県美術展覧会 県知事賞 絵画部門

大北 正明（三高24回卒）

■寄贈

池下美代子（三高5回卒）＝佐藤東子（ペンネーム）

短歌会誌『清風』 令和6年9月号～令和7年9月号

『青風』（25周年合同歌集）

岩倉泰一郎（三高19回卒）

『第32回 岐阜県文芸祭作品集』

『第27集 香川県詩集』

松浦 治（三高23回卒）『日本共産党の百年』

富山 功一（三高25回卒）

『手塚治虫絵コンテ大全第1巻～第7巻』他12冊、

『手塚治虫漫画全集』375冊、

新聞記者関係書籍など

原 彪（三高26回卒）

『日本絵巻大成』全27巻、『日本の歴史』『別巻』

全31巻、『日本美術全集』4冊、『ランドマーク世界史』

14冊、『世界名画の旅』4冊、『日本の歴史（改訂

新版）』全11巻、『ルーブル美術館』全7巻

滝 朋子（三高36回卒）

『瀬戸内むしの会 会誌へりぐろ No.46』

読み聞かせボランティア「野の花」代表 金岡エミ子

（三高13回卒）、細川キョエ（三高14回卒）、

青木 治子（三高14回卒）

『伝えよう さぬきの昔話（上）（下）』

南原繁研究会

『戦争と平和—南原繁再考（その二）—』

■同窓会の開催

3つの学年から同窓会開催の報告がありました。それぞれの学年、クラスで楽しい時間を過ごされたようです。



●思い出の文化祭

森本 博昭 (三高 18 回卒)

私達の時代は団塊の世代で、1クラス 50 数名ずつ在籍し 9 クラス有し、我クラスは 57 名の在籍であった。そんなクラスメイトと喜寿を兼ね 11 年振り 2 回目の開催をした。1 回目お元気だった担任の石井昭夫先生、副担任の河野弘先生のご両名の方もご逝去され、当日は石井先生の奥様のご出席を頂いた。11 年前とは半数の参加者だった。全員澁刺としていたが、自己紹介のスピーチでは、現在の病いや過去の病気等に触れる話題が中心となって笑いを誘っていた。久しぶりの同窓会の企画に多くのクラスメイトが参加してくれた事に感謝の一言です。又楽しみにして参加できなかった方々にありがとうございます。

高校生活の中で忘れられない 3 年生の時の文化祭。仮装行列で 3 位だったことである。我クラスのテーマは「仮装」と「火葬」をダブらせ織田信長の葬儀を演出した。卒業後の初めてのクラス会で、石井先生より裏話で持ち時間をオーバーしていなければ 1 位だった…と。(苦笑) 尚更忘れられない思い出になってしまった。過去は取り戻せないから、これからの時代を有意義に過ごそうと思う。日々是好日と言うけれど簡単そうで難しい。三高の思い出は尽きる事なく、写真や日記に残され我胸に甦るのである。我々の学年は三高卒業 50 周年の年に全クラスの代表が寄り、声かけし 100 万円の寄附をすることができたのも三高愛の一端だと自負したい。



文化祭の仮装行列

●3 年 3 組クラス会

鈴木 優 (三高 66 回卒)

令和 7 年 3 月 23 日、三本松高校を卒業して 10 年を迎え、旧友が集まった。

数か月前の年末、親しい友人達と毎年の恒例行事となっている食事会で、「結局タイムカプセル開けるのっていつだっけ?」と話題に上がった。私達は帰省等で顔を合わせる度に、タイムカプセルの話をしており、掘り起こすのを心待ちにしていた。早速、当時担任の小原先生へ電話をかけると、懐かしい声が返ってきた。

同窓会当日、先生を始め、時間通りに集合しないメンバー、タイムカプセルを埋めた場所を覚えていない私、練習中の野球部からボールを拝借してキャッチボールを始める友人。皆あの頃と変わらず、私達の知っている学舎とは違っても、まるで 10 年前に戻ったかのようなだった。

タイムカプセルには、10 年後の 28 歳になった自分に宛てた手紙、体育祭で作成した学級旗や当時の写真等が詰まっていた。自分宛ての手紙には今見ると恥ずかしい事が A 4 サイズの用紙にびっしりと綴られており、友人と見せ合ったり、自身と答え合わせをするように読み返していたりと皆様々だった。

今回、同窓会にはクラス全員が参加することは出来なかったが、それぞれの環境が変わっても 10 年前と変わらない恩師・旧友の元気な姿を見られたことが一番の思い出となった。

次はいつになるか分からないが、再び、昔と変わらぬ友人達と会えることを楽しみにしている。



●クスノキ

三井 葉子 (三高26回卒)

令和7年1月3日、三高26回卒業生約70名が、恩師をお迎えしてベッセルおおちに集まりました。

きっかけは、卒業50年の記念事業となっている母校への募金活動でした。私も依頼を受けて世話人の一人として事業に参加しました。活動は昨年5月にスタートし、昔の住所録や人づて、SNS等を活用して連絡先の収集から始めました。8月頃にはどうにか郵送の準備ができ、募金の依頼文とその要領、そして卒業後初の合同同窓会の案内を同封して発送することができました。募金はどのくらい集まるのか、同窓会には大勢参加してくれるのかなど、楽しみや期待と不安な気持ちで同窓生たちからの返事を待ちました。

秋になり、寄付が集まりはじめ目標額をはるかに超える金額になりました。同級生たちの母校を想う気持ちや熱い愛情を感じることができ、感謝の気持ちで一杯になりました。

同窓会の返事も集まりはじめ、全クラスの人数の4分の1を超える参加の返事をもらいました。そしていよいよ当日、ベッセルの受付には懐かしい顔が次々に集まり、50年前の記憶が蘇ってきました。全員の集合写真を撮った後、物故者への黙祷を捧げてから校歌を斉唱して同窓会が始まりました。そして世話人の代表と恩師二人のごあいさつの後はすぐに、懐かしい笑顔の話し声や笑い声が会場一杯に響き渡りました。クラスごとに塊になり、高校時代の思い出や経験談で大いに盛り上がりました。次の同窓会の予定を話し合うクラスもありました。今回の企画を通して昔の友人たちと再会を果たすことができ、また新たな交流が始まったことを心から嬉しく思います。

2月に母校を訪問し、集まった寄付金を校長先生に無事届けることができ安堵しました。校庭に今なお生き続けるクスノキのごとくに、明治33年に創立した私たちの母校が末永く続くことを願って止みません。



三高26回卒業生より 寄付の贈呈

卒業後50周年記念事業の一部として三高26回生より多額のご寄付をしていただきました。生徒のために有効に活用させていただきます。ありがとうございます。

(収支決算表P3参照)



校長室にて

第17回 旧職員のつどい

今年は、曜日の都合で創立記念日の行事が1日前倒し実施となったため、旧職員のつどいも4月25日(金)に開かれました。第17回目となる今年の「旧職員つどい」には、19名が出席されました。

10時半に百周年記念館(図書室)に集まり、お昼には当時の面影が残る食堂で、学校自慢の定食をいただきました。その後、お互いの近況報告をしながら、昔話に花を咲かせました。恒例の紅白餅を手に、来年の再会を祈念して解散いたしました。

来年以降も多くの方に出席していただけることを期待しています。



三本松高校「時習庭」にて

三高生の特色ある学習と主体的な活動

兵庫研修 1年 理数選抜クラス (令和7年8月26日～27日)



大阪・関西万博（日本館）にて

1泊2日の日程で大型放射光施設 SPring-8 や兵庫県立人と自然の博物館、理化学研究所生命機能科学研究センター、大阪・関西万博を訪問しました。各施設ではさまざまな分野の基礎的な研究や、実社会への応用に向けた研究など、日本が誇る最先端の技術に触れることができ、数多くの学びを得ました。科学技術に対する関心を高めることができる充実した2日間になりました。

海外フィールド研修 2年 理数科 (令和7年1月19日～24日)



4泊6日の日程で研修を行いました。ハワイでの研修は5年ぶりです。1日目から3日まではハワイ島のヒロ周辺を訪れ、アカカ滝州立公園やハワイ火山国立公園を散策し、植生や火山の成り立ち、ハワイの文化を学びました。現地ガイドの長谷川さんから興味深い解説を受けながら、日本では見ることのできない雄大な景色を間近に見ることができ、有意義な研修となりました。また4日目はオアフ島のホノルルで班別行動を取り、現地の文化に触れることができました。

海外語学研修 2年 国際コース (令和7年7月15日～30日)

今年もオーストラリア・ケアンズで約2週間の語学研修を行いました。毎日、午前中は語学学校で英会話などを学び、午後は校外に出て、博物館

や水族館に行ったり、アボリジニアートの体験をしたりしました。休日には、世界遺産であるグレートバリアリーフのグリーン島やキュランダ観光を楽しみました。ホストファミリーとも交流を深めることができ、一生思い出に残る夏になりました。



グリーン島にて

「香川県高校生献血ボランティアネットワーク」

私たちは、2024年の秋から、学校献血の推進に力を入れてきました。高校での学校献血の実施は若年層の献血者数増加に大きく貢献することが分かっていますが、香川県下での学校献血の実施率は25.6%と全国平均の20.1%は上回るものの、まだまだ浸透していないのが現状です。香川県内の学校献血の実施率を向上させるために、チラシの作成やイベントでの周知、また近隣の高校へ実際に足を運び説明会をする等といった取り組みをしてきました。

2025年、新たに学校献血を実施してくれた高校は1校ですが、着実に成果を出せるよう今後も取り組みを続けていきます。また、2025年8月に行われた「高校生ボランティア・アワード2025」では全国大会出場を果たし、サイネージ部門での発表を行ってきました。高校生の力で献血の輪を広げていくために、今後も活動していきます。



「高校生ボランティア・アワード2025」会場にて

■「三高みんなの食堂プロジェクト」

2年 三好 紗愛

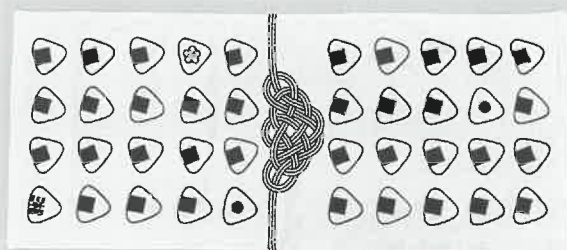
このプロジェクトは5年前に学食を復活させたいという思いの三高生により始まった活動です。現在では生徒の多くが学食を利用しており、校内に限らず地域へと広めるために9つのチームで様々な活動しています。生徒が自主的に活動し、畑チームではその季節にあった野菜を校内で育てたり、イベント企画チームでは焼き芋大会などの行事をしたりしています。他にも地元の手袋産業の革端材を利用してエコバック作りなどのクラフトや「みんなの交流カフェ」という東かがわ市内の中学生と一緒に地域の様々な世代の方と交流するイベントを企画運営するなどしています。

今年度の校外での活動としては徳島で行われた「食育推進全国大会」や東京での「全国高校生ボランティア・アワード2025」の発表や活動紹介、引田での「瀬戸内国際芸術祭」へのマルシェ参加などがあります。食育大会や瀬戸芸では地元の特産品を使った和三盆揚げボールや和三盆ソーダ、和三盆コーヒー、エシカル野菜スープなどを販売しました。コーヒーには、和三盆糖、白下糖、糖蜜などから選んで味わってもらうことで様々な風味を楽しんで貰えるように工夫しました。購入してくれた方に和三盆の優しい甘さがと良く合っていて美味しいと言ってもらいました。

また、「かがわ総文祭2025」でベトナムの高校生が三本松高校に訪問してくれた際にオリジナルの「おむすびタオル」をプレゼントしたり食堂でご飯を食べたりしました。おむすびタオルのデザインをすごく素敵だと喜んでくれました。



「第20回食育推進全国大会」(徳島)でのマルシェで和三盆をアピール



オリジナルの「おむすびタオル」

■「虎丸ゼミ」

放課後や休日に行う、自主参加の双方向対話型のゼミです。生徒が自らエントリーして多様な分野のプロフェッショナルと直接対話をしながら視野を広げ、主体的に幅広い学びに向かう姿勢を身につけることを目的としています。

直近では、地元の醤油蔵を舞台にした映画「ワタシ、発酵します!」の撮影現場を間近で見学するゼミを実施し、多くの製作者の気持ちが集中した現場の空気感を肌で感じ、関係者との会話などもできてとても貴重な経験ができました。大学教授による課題研究や探究活動と大学での研究をつなぐゼミ、医師による新生児医療の現場から命について考えるゼミなどを行いました。

他にも以下のようなゼミを実施しました。

※各回のテーマ

- [64 回] 高校生のための教職員説明会 (県教委)
- [65 回] 介護の仕事紹介～ (県老施協)
- [66 回] 野菜摂取見える化チャレンジ!
(県東讃保健福祉事務所)
- [67 回] 「財務大臣」になって予算をつくろう
(財務省四国財務局)
- [68 回] いのちの理由 (岐阜県総合医療センター
新生児内科医長寺澤先生)
- [個別訪問型]
まちのキャリアゼミ
- ①中国銀行三本松支店②サングローブ③文遊館
④味道源⑤社会福祉協議会⑥四国新聞⑦東讃保健所
⑧東かがわ市役所
- [69 回] 探究から研究へ (広島大学西堀教授)
- [70 回] アートを感じてみよう (香川大、東京芸大)
- [71 回] ヨーロッパと東かがわ (外国語指導員)
- [72 回] まちの健康をまもる (市長寿保健課、社協)
- [73 回] フラワーアレンジメント (教育倫理プラザ)
- [74 回] 座談会に参加しよう
(地域活動をしている方々、社協)
- [75 回] 看護・医療・教育・福祉系の進学に向けて
(元三高養護教諭)
- [76 回] 映画の撮影を見学しよう
(映画「ワタシ、発酵します!」)
- [77 回] どうしたら交通事故はなくなるのか…
(東かがわ警察署)

■第11回 南原ウォーク

第11回目の南原ウォークが、令和6年12月7日に実施されました。今回は、生徒・保護者・ロータリークラブ・OBなど計111名が参加し、旧相生小学校での出発式の後、学校に向けて歩き始めました。天候も良く、歩きやすい気温で、途中の讃州井筒屋敷やマルナカ白鳥店で小休止を挟みつつ、12kmを約3時間かけ全員完歩しました。学校では、PTAや「みんなの食堂」で用意して頂いた豚汁とおにぎりを頂き、解散となりました。



旧相生小学校で出発式

■創立記念日（虎丸登山）

令和7年4月25日（金）、生徒・教員合わせて339名が参加し、令和7年度の虎丸登山が実施されました。当日は薄曇りの歩きやすい天候で、出発式の後9:30からクラスごとに歩き始めです。虎丸登山の平面行程距離は11.6kmですが、高低差が409mあります。標高417mの虎丸山山頂から聞こえる応援団の声に励まされながら、ようやくたどり着いた山頂での景色はまた格別でした。学校に帰ってからは、名物の紅白餅を頂き、解散となりました。



山頂を目指しもう一踏ん張り

■文化祭

令和7年9月5日・6日に「三高祭 2025 ～青春の陽の光は君を照らす～^{スポットライト}」をテーマに文化祭が行われた。クラスや委員会などが工夫を凝らした展示やバザー販売を行うとともに、公演やパフォーマンスで会場を盛り上げた。



吹奏楽部と野球部のコラボレーション

令和6年度 進路状況

（過年度卒業生を含む延べ合格者数）

○国公立大学 = 42

三重大1 京都教育大1 鳥取大1 岡山大5
広島大1 徳島大7 香川大13 愛媛大3
高知大2 神戸市外国語大1 公立鳥取環境大1
新見公立大1 尾道市立大1 香川県立保健医療大1
高知県立大3

○私立大学 = 236

青山学院大1 国士舘大2 上智大1 東海大1
日本大1 中京大1 名古屋外国語大3
大谷大2 京都外国語大2 京都産業大6
京都女子大4 佛教大9 立命館大3 龍谷大26
大阪経済大2 大阪工業大1 大阪商業大2
関西大7 関西外国語大8 近畿大25
関西学院大7 甲南大5 神戸学院大12
武庫川女子大1 岡山理科大4 川崎医療福祉大7
就実大1 広島工業大1 四国大4 徳島文理大26
高松大4 松山大14 その他43

○短期大学 = 8

関西外国語大短大部2 近畿大短大部2
せとうち観光専門職短大1 高松短大3

○専門学校・各種学校 = 15

日本工科大学校1 穴吹医療大学校2
穴吹デザイン2 穴吹ビューティ1
香川県歯科医療専門1 高松市医師会看護専門1

○就職関係 = 4

兵庫県警 香川県警 さぬき市職員
帝國製菓株式会社

部活動等の活動状況

令和6年度(10月～3月)

香川県定時制通信制生徒生活体験発表大会

最優秀賞 4年 池田真之介→全国大会出場

香川県高校新人大会

【弓道部】

女子団体 準優勝(松岡、阿部、中川、間嶋、玉越、山崎、元網心)→西日本大会出場

女子個人 3位 元網心萌

【フェンシング部】

男子個人 フルーレ 3位 河井陽尊

女子学校対抗

フルーレ 3位(朝田、中条、池田、原田、溝渕)

サーブル 優勝(朝田、中条、池田、原田、溝渕)

→全国大会出場

女子個人

フルーレ 3位(朝田笑愛)

サーブル 2位(池田羽愛)

〃 3位(朝田笑愛)

全国選抜四国予選会

【フェンシング部】

サーブル 2位(朝田、中条、池田、原田、溝渕)

→全国選拔出場

全国高等学校選抜

【フェンシング部】

サーブル ベスト8(朝田、中条、池田、原田、溝渕)

【吹奏楽部】

全国日本アンサンブルコンテスト(東讃・高松大会)

木管6重奏 銅賞(野崎、二宮、武田、林、矢野、谷口)

金管5重奏 銀賞(遠藤、中山、辻、柳澤、若本)

打楽器3重奏 金賞(三谷、大江、川田)

【三高みんなの食堂プロジェクト】

ディスカバー山漁村の宝 中四国農政局選定

全国ユース環境活動発表大会四国地方大会 優秀賞

エシカル甲子園2024 徳島県教育委員会教育長賞

脱炭素チャレンジ2025 奨励賞

令和7年度(4月～8月)

香川県高校総合体育大会

【弓道部】

女子団体 3位(大力、竹本、中川、玉越、松岡、間嶋、山崎)→四国大会出場

【フェンシング部】

男子学校抵抗

フルーレ 2位(河井、山下、奥村)

→四国大会出場

男子個人

サーブル 4位 山下直太朗→四国大会出場

女子個人

フルーレ 3位 朝田笑愛→四国大会出場

サーブル 2位 池田羽愛→四国大会・全国大会出場

〃 3位 中条珠緒→四国大会出場

〃 4位 朝田笑愛→四国大会出場

四国高校選手権大会

【弓道部】

女子団体 準優勝(大力、間嶋、竹本、中川、玉越、松岡、山崎)→全国大会出場

【フェンシング部】

男子個人 サーブル ベスト8 山下直太朗

女子個人 サーブル ベスト8 中条珠緒

〃 〃 池田羽愛

うどん県書道パフォーマンス2025

審査員特別賞(井上、原、三谷、山本)

全日本吹奏楽コンクール香川県大会

B部門 金賞

香川県高校定時制通信制課程総合体育大会

【柔道】

男子個人

90kg 超級 優勝 福永龍紫→全国大会出場

90kg 級 優勝 王青輝→全国大会出場

※団体男子に県選抜メンバーとして上記2名全国大会出場

【バドミントン】

女子個人 準優勝 大川愛美→全国大会出場

全国高校総合体育大会(インターハイ)

【弓道部】

女子団体

決勝トーナメント進出(大力、間嶋、竹本、中川、玉越、松岡)

【フェンシング部】

女子個人 サーブル 32位 池田羽愛

全国高校総合文化祭出場

【科学部】<研究発表>

(相賀、江口、竹本)「クラドニ図形の振動の詳細な測定」

(安戸、池田、吉川)「カゼイン樹脂に含まれる成分の検討」

(二宮、近藤、柴田)「実験室で真珠はできるのか～アラゴナイト結晶生成の最適化～」

(中川、森、筒井)「ゼニゴケの成長に同種生物の存在は影響するか」

(玉越、山崎、六車)「三本松高校屋上での天体観測の適性を夜間の暗さから考える」

食育推進全国大会発表

【三高みんなの食堂プロジェクト】

高校生ボランティア・アワード2025 全国大会

【三高みんなの食堂プロジェクト】(ブース発表)

【香川県高校生献血ボランティアネットワーク】

(サイネージ発表)

事務局からのお知らせ

◆会費納入について＜一般年会費:2,000円・本部役員年会費:5,000円＞

同窓会費の予算がひっ迫しています。以下のような方法で会費を納入できますので、知り合いの卒業生の方にも連絡し合っていただくと、できるだけ多くの方々から会費を納入していただけるようお願いします。

A 振込用紙で振り込む
(同封の振込用紙を利用する)

スマホ



コンビニ



郵便局

B 直接振り込む

郵便局
ゆうちょ銀行口座 01680-9-6242
名義 大中三高会

銀行

口座 百十四銀行 三本松支店
普通0756237
名義 大中三高会 会長 原 彪(はら たけし)

- ① 何年かまとめて納入希望の方は、「2,000円×何年分」と通信欄に記載のうえ、郵便局よりお振り込みください。
- ② 用紙を用いないで直接お振り込みした方は、振り込み後、大中三高会事務局へ「氏名・卒業年・現住所等」をご連絡ください。ご連絡ない場合は、会費納入一覧に振込名のまま掲載させていただきます。

＜注意＞

三本松高校事務室（窓口）での納入（受け取り）は出来ません。必ず、お振り込みください。

また、2026（令和8）年2月末までに納入ください。年度内に入金が確認できない場合は、次年度の会費とさせていただきます。

◆「同窓会開催補助金制度」について

大中三高会の会員が開催する学年全体の同窓会に対して、開催費用の一部を補助する「同窓会開催補助金制度」（3万円）を創設しております。この制度は、会員が母校に思いを馳せる機会、また、会員間の親睦を深める機会としての学年同窓会の開催を助成するものです。

事前の申請・審査が必要です。開催をお考えの幹事の方は下記事務局へお問い合わせください。

◆会報の送付について

会報は、会費納入者に納入後2年間および卒業後6年間 お送りさせていただきます。

今後とも皆様から納入いただきました会費は有効に活用させていただきますので、会費の納入にご協力をお願いいたします。

なお、同窓会活動につきましては、三本松高校HPに掲載していますのでご覧ください。



大中三高会HPページ

◆住所等変更について

住所等の変更は、下記事務局までご連絡ください。

事務局への連絡はメールをお願いします。

編集
後記

ようやく秋の気配が感じられる時期となりました。大中三高会も会長が交代しこれから組織の一新が求められますが、この会報もできれば会員の皆様に楽しみにされるようなものにしたいと考えています。そのために、この会報の編集に携わっていただける方を募集します。楽しく充実した紙面づくりを目指して、内容や構成・デザインを新しいものに変えていきたいと思っておりますので、希望される方はぜひ事務局までご連絡ください。



大中三高会報 No.54／2025（令和7）年10月1日発行

香川県立三本松高等学校同窓会 大中三高会

〒769-2601 香川県東かがわ市三本松1500番地1

Tel 0879-25-4147(学校) E-mail ashitanitakaku@gmail.com

